

完了後の評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 26 |
|------|----|

| | | | |
|---------|----------------------|---------|-------------|
| 事業名 | 森林環境保全整備事業 | 都道府県 | 熊本県 |
| 地域（地区）名 | くまがわ 球磨川 | 事業実施主体 | 県、市町村、森林組合等 |
| 関係市町村 | やつしろ 八代市ほか 14 市町村 | 管理主体 | 県、市町村、森林組合等 |
| 事業実施期間 | H23 年度～H29 年度（7 年間） | 完了後経過年数 | 5 年 |

| | |
|-----------------|---|
| <p>事業の概要・目的</p> | <p>本地区は、熊本県の南部に位置する本県の林業の中心的地域であり、対象民有林は171千ha、うちスギ、ヒノキを主体とした人工林は118千ha（人工林率69%）となっている。</p> <p>人工林の齢級構成は、7 齢級以上の森林が88%を占めており、本格的な利用期を迎えている一方、保育や間伐等を必要とする3～12 齢級の森林が52%もあり、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>このため、主伐を推進し、充実した森林資源の有効活用による地域の林業・木材産業の振興を図るとともに、主伐後の再造林や間伐等といった森林施業を適確に実施し、水源涵養等の森林の有する公益的機能を持続的に発揮させる必要がある。</p> <p>本事業では、森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、再造林や間伐等の森林整備を施業の集約化による効率化を図りつつ実施するとともに、これらの効率的な推進及び木材の安定供給の確保に資する路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p>森林整備 24,144ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道整備等</p> <p>路網整備 7,771m 林道開設、改良</p> <p>・総事業費 20,954,095千円（税抜き19,641,695千円） （平成 22 年度の評価時点 9,372,824 千円）</p> |
|-----------------|---|

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> | <p>令和5年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や優先度の高い箇所から森林整備を実行したことや路網整備の追加等による事業量の変動、費用便益分析で使用する単価の変化等によるものである。</p> <p>総便益（B） 330,400,888千円（平成22年度の評価時点 54,448,095千円※） 総費用（C） 56,728,636千円（平成22年度の評価時点 13,289,002千円※） 分析結果（B/C） 5.82（平成22年度の評価時点 4.09※）</p> |
| <p>② 事業効果の発現状況</p> | <p>本事業で植栽されたスギ・ヒノキの成長は良好であり、植栽や間伐等によって24,144haの森林が整備され、水源涵養等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、森林施業の集約化・機械化及び路網整備等により効率的な作業が可能となり、木材が安定的に供給された。</p> <p>森林整備の実施により雇用の場が提供され、地域経済の振興に貢献した。</p> |
| <p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p> | <p>整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況にある。</p> <p>整備された路網は、草刈りや路面の補修等が行われており、良好な管理状況にある。</p> |
| <p>④ 事業実施による環境の変化</p> | <p>本事業により健全な森林が育成され、水源涵養等の森林の有する公益的機能が高度に発揮されるとともに木材の安定供給が確保された。</p> |
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>本地区の人口が年々減少傾向にあり、林業就業者数も平成26年度2,603人から令和2年度は2,398人に減少している。</p> <p>こうした状況の中、林業の現場では、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進められており、担い手の確保とともに高性能林業機械のオペレーターの育成を推進している。</p> <p>また、県内では大規模な木材加工施設やバイオマス発電施設等が稼働し、木材需要が拡大しており、木材の安定的な供給を通じて地域経済の振興に貢献していくことがますます求められている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、適正な森林施業の実施による健全な森林の育成が必要であるが、その費用負担や担い手不足等が課題となっている。このため、耐久性と利便性に富む路網整備に取り組むとともに、伐採と造林の一貫作業や植え付け効率の向上等が期待されるコンテナ苗の導入等により、効率的な作業システムの確立が重要である。</p> <p>また、森林所有者に対する普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>地元意見： （熊本県） 森林整備事業実施によって水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。</p> |

| | |
|------|--|
| 評価結果 | <p>必要性： 主伐後の再造林や間伐等の森林整備が必要な人工林が多くを占める地区であり、森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林施業の集約化や路網整備による効率的な森林整備が実施されており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林整備及び路網整備によって、森林の有する公益的機能及び木材等生産機能の維持増進が図られており、事業の有効性が認められる。</p> |
|------|--|

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

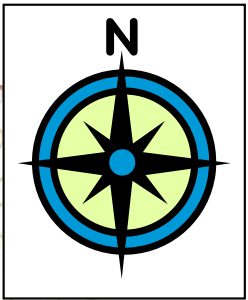
都道府県名：熊本県

地域(地区)名：球磨川

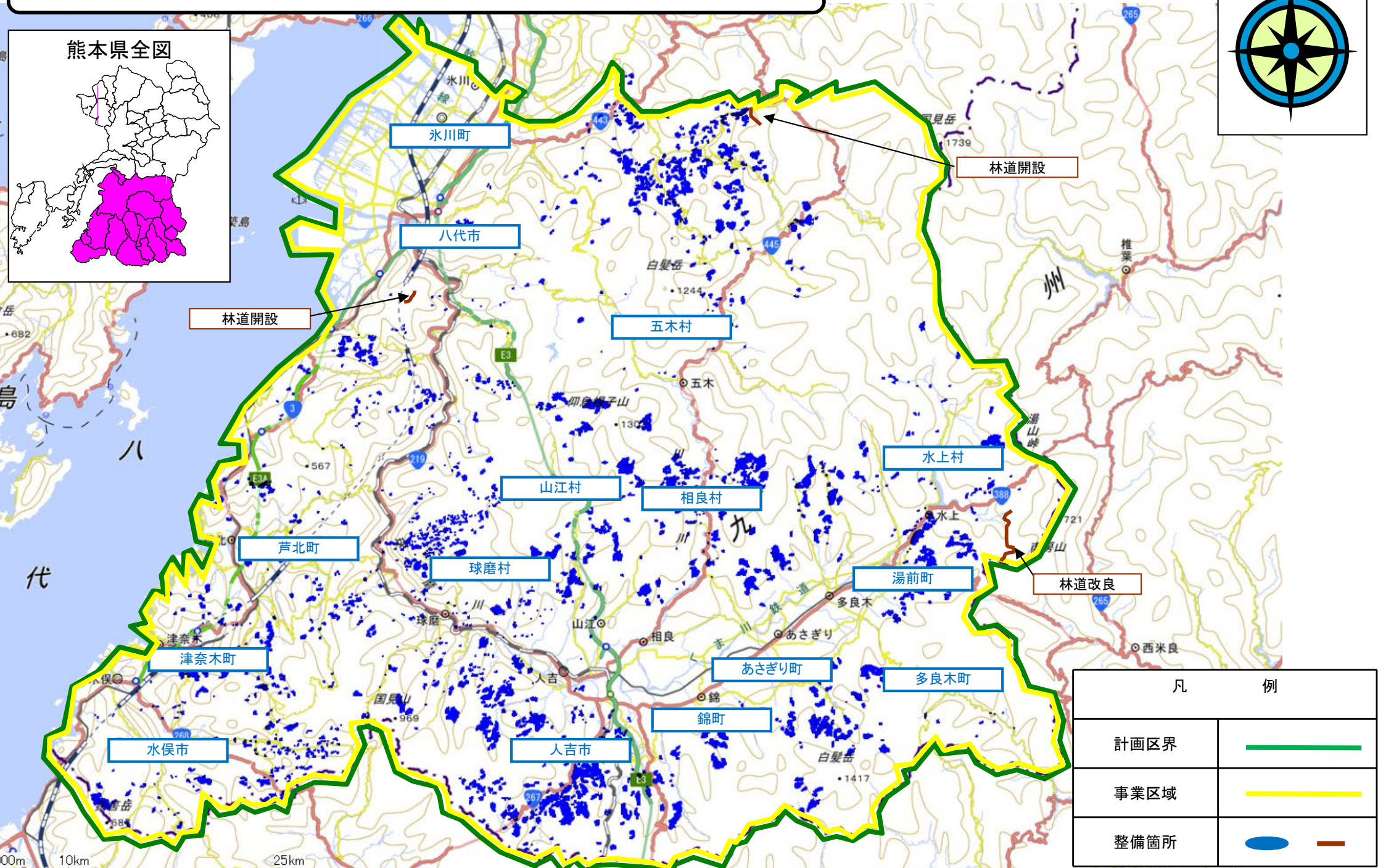
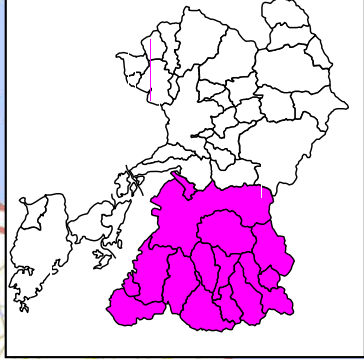
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-------------|--|-------------|-----|
| 水源涵養便益 | 洪水防止便益 | 108,034,018 | |
| | 流域貯水便益 | 21,951,441 | |
| | 水質浄化便益 | 71,973,529 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 62,653,654 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 21,974,271 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産経費縮減便益 | 41,701 | |
| | 木材利用増進便益 | 62,412 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 42,998,343 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 森林管理等経費縮減便益 | 18,221 | |
| | 森林整備促進便益 | 535,169 | |
| 災害等軽減便益 | 災害復旧経費縮減便益 | 156,791 | |
| 維持管理費縮減便益 | | 1,338 | |
| 総 便 益 (B) | | 330,400,888 | |
| 総 費 用 (C) | | 56,728,636 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{330,400,888}{56,728,636} = 5.82$ | | |

森林環境保全整備事業 球磨川地域(熊本県)



熊本県全図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用した。(承認番号 令元情使、第634号)

森林環境保全整備事業（熊本県球磨川流域）



人工造林



下刈り



保育間伐



搬出間伐（列状）



搬出間伐（定性）

